

# 水産防疫対策委託事業（水産動物疾病のリスク評価，国際基準・情勢に対応したアクティブサーベイランス等の実施）（令和3年度／国庫委託）－栃木県におけるアユ冷水病発生株の調査－

武田維倫・石川孝典・酒井忠幸・小堀功男・小原明香

## 要 約

本課題では，2020年に高野らにより開発されたマルチプレックス PCR 法による冷水病原菌の遺伝子型分類法を用いて 2021年に栃木県内河川から単離した冷水病原菌 38株の遺伝子型を解析し，昨年度までに解析した 2016-2020年の 25株の遺伝子型データを加えてその発症の傾向を解析した。

その結果，2021年に栃木県で単離した 38株は 5種の遺伝子型に分類され，2016-2020年までと同様に CD45型と CDC5型が 8割を占め，残りの 3種は過去に栃木県内では確認されたことの無い遺伝子型であった。また，2021年に栃木県内の同一地点から複数菌株が採取された 11事例（35株）では，解禁後経時的に同所から複数の遺伝子型が検出されるようになる傾向が確認された。単離された菌株の遺伝子型については，水系による分布の特徴は確認されなかった。このことから，解禁後の冷水病発症については発生源の多様化が起きており，多様化には解禁後の人やおとりアユの動きが関与している可能性が昨年引き続き示された。

なお，本課題の詳細については「令和3年度 水産防疫対策委託事業（水産動物疾病のリスク評価，国際基準・情勢に対応したアクティブサーベイランス等の実施）報告書」により農林水産省へ報告した。

（指導環境室）